



Herald 日本ヘラルド映画〈カラー作品〉

300万人の囚人を見張る自由の女神
1997年マンハッタン島は巨大な監獄となった!

そこで何が起こるのか!
秒刻さみの興奮を呼ぶ近未来SF超大作!



エスケープ1997



ニューヨークマップは塗り変えられ、ぼくらのド肝を抜くマッドでパワフルな姿が現れた

ニューヨーク1997

1997年、NYは監獄となった！

NYはぼくらの街だ。コンテナポリマーでヴィヴィッドな街、何が飛び出すかわからない街、そこがたまに魅力なんだ。NYの事を考えると、思わずトリップしてしまう。

'80年代のNYは、ぼくらは全て見透せる。ところがここ世紀末のNYが姿を見せてくれた。ぼくらでさえ、とても想像できなかった姿だ。1997年、NYは監獄となり、全米中の囚人たちがマンハッタン島に集められた、というのだ。「ニューヨーク1997」。このド肝を抜く大胆不敵、奇想天外なトリップ感覚に脱帽！！

自由の女神は絶好の監視塔だ！

監獄の第一条件は脱獄不可能なこと。そこでこのNYプリズンには、考え得限りの脱獄防止の細工が施してある。マンハッタン島を囲む全ての川、水路には高圧の殺人電流が流れ、橋という橋には地雷が埋設されている。そして、四方は見上げるばかりの壁だ。さすがのぼくらもビビるぜ。あの自由の女神とはいば監視塔だ。気高き女神に巻きついた有刺鉄線。誇りに満ちた目からは赤色のスポットライト。監視塔としては完璧だ。それにしても、何とも空恐ろしい光景ではないか。

オカマの囚人がイカしてるぜ！

横じまの囚人服、坊主頭なんてナンセンス。1997年の囚人たちは実にファッショナブルだ。世紀末、テカダンなムードと挑発的なキラキラファッションは奇妙に似合うんだ。「素敵」なオカマが男を誘えば、ストリートギャングが行き過ぎる。マジソン・スクエア・ガーデンではテスマッチが行われ、何千もの囚人が目を輝かせる。何せ300万人もの囚人がいるんだ。脱獄は不可能だし、食糧は月に一度投下されるだけ。夢も希望もありやしない。刹那的なバイオレンスに生きる囚人たち、異様な迫力が圧倒的。

監獄のド真中に大統領専用機が不時着！

サミットへ向かう大統領専用機が、こどもあろうにNYプリズンのド真中に不時着した。しかも大統領は国家の存亡に関わる重要書類を携えていた。こんな「チャンス」を血に飢えた囚人たちが見逃がすはずがない。監獄きっての凶悪ストリートギャング「ジブシーズ」は、さっそく大統領を捕虜にした。彼らの提示した大統領解放の条件は「300万人の全囚人の即時釈放」。何たる大胆な要求！そこで政府は、これまた驚くべき対抗手段に出た。いよいよ始まった。このスケールにはワクワクするぜ。



片目のマウトローがぼくらのヒーローだ

スネーク・プリズケン。300万の囚人も恐れおののく犯罪の帝王。頭脳明晰、沉着冷静、動作敏捷の極悪人。黒いアイマスクで片目をおおい、長髪をかき上げ銃を構える姿は、ほれほれするほど絵になるぜ。そのスネークがNYプリズンに送り込まれた。何故彼が？理由は簡単だ。政府は大統領救出を条件に彼の釈放を約束した。ただし、24時間以内に。さもなければ、彼の頸部に注入された特殊ニトログリセリンが炸裂する、というわけだ。ぼくらがヒーロー、スネークが走り出した……。

不可能に挑戦するときドラマが生まれる

巨大な監獄に潜入したスネーク。彼を待ち構えていたのは、無数のストリートギャングたち。ビルの屋上、入り込んだ路地、地下鉄の出口、マンホールの中から彼らはスネークに襲いかかる。「ジブシーズ」のアジトにたどりついたとき、スネークはすでに傷だらけだった。脂ぎった巨漢との凄絶な格闘。武器など必要ない。素手でのぶつかり合いだ。スネークは巨漢をなぎ倒した。次は脱出だ。街を駆け抜け、壁をよじ登り、不可能な脱出行が始まった。だが、もはや時間はない。



J・カーペンターはぼくらの憧れだ

J・カーペンター32才(1948年生まれ)。彼はいつもぼくらの映画の好奇心を満たしてくれる。「ハロウィン」の殺人鬼、「ザ・フロッグ」の亡霊に熱狂していたら、今度はこの「ニューヨーク1997」だ。心憎いほどぼくらの心情を分かってくれている。彼はUSC在学中から映画大好き少年で、卒業後ダン・オバノン(「エイリアン」原案者)と組んで製作した「ダーク・スター」は最高に楽しいSFの名作だ。「ニューヨーク1997」は彼の初のアクション大作。嗚呼、憧れのカーペンター。

映画的魅力にあふれた近未来サスペンス

奇想天外なシチュエーション。大スペクタクルのアクションシーン。時間との争い。息もつかせぬサスペンス…。娯楽映画の全ての要素をぶち込んだこの「ニューヨーク1997」。しかもアナクロな娯楽大作ではなく、ぼくらの感性にマッチしたエンターテインメントなんだ。スタッフ、キャストの多くはいつものカーペンターファミリー。いつまでも「映画青年」の彼らは、製作費700万ドルのこの「大作」でも手作りの感覚を忘れていない。そこがまたうれしいではないか。

ESCAPE FROM NEW YORK

製作リー・フランコ
デボラ・ヒル
監督ジョン・カーペンター
脚本ジョン・カーペンター
ニック・キャッスル
日本ヘラルド映画
〈カラー作品〉
カート・ラッセル
リー・バン・クリーフ
アーネスト・ボークナイン
アドリエンヌ・バーボ

5月23日全ロードショー
DOLBY STEREO
日比谷映画 (591) 5353
特別鑑賞券1200円・発売中
〈当日・一般1500円/学生1300円のところ〉

